

## ■ 神奈川県大学図書館

横浜 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 TEL (045)481-5661(代表)  
平塚 〒259-1293 平塚市土屋 2 9 4 6 TEL (0463)59-4111(代表)  
<http://www.kanagawa-u.ac.jp/lib/index.html>

## 文化的遺産とのふれあい

平塚図書室長 菅原晴之

人々は文化的遺産から何を連想するであろうか。日本でモナリザやツタンカーメンが初めて展示された当時、いずれの展示会も大盛況であった。海外旅行が大衆化された昨今でも、世界的に著名な文化的遺産を見学する日本人は多い。ヨーロッパの伝統的音楽を継承するクラシック演奏も人気が高く、世界的に著名な楽団や演奏家のコンサート・チケットは国内ではおおむね完売である。しかし、文化的遺産は、芸術、文学、歴史などの狭い領域に限定されない。数学、物理学、統計学なども文化的遺産に含まれる。

西欧音楽の音階を低い方から順にオシロスコープで測定すると、その周波数は調和数列を示すことが知られている。人々が美しいと感じる音階から天才的作曲家によって多くの名曲が作られたことと、数学や物理学が進歩することとは無関係ではない。ある日本人が、バイオリニストとしてドイツの交響楽団で活躍していた。彼は音響工学を専門的に勉強した上で、平素からオシロスコープを使ってバイオリンの音色を研究しながら練習に励んでいた。今から20年ほど前のある日、新聞に掲載されている金先物相場の時系列グラフに興味を持った。なぜなら、この相場の動きとバイオリンの音色のパターンがよく似ていることに気づいたからである。その結果彼はこの相場の分析に夢中になり、まもなく金先物ディーラーに転職したのである。

確かに上記2分野の関連性については、学校でも社会でも教えてくれない。なぜなら、この発見は世界的にも画期的なものだったからである。これらの分野に関わる基礎的な学習内容は、義務教

育の段階で音楽、理科、数学(算数)、社会に盛り込まれていた。しかし、ゆとり教育の実施に伴って、必要な基礎的学習内容が教科書から相当脱落していると思われる。確かに教科書の分量は減った。問題は量的な減少より、内容を体系的に説明する最小限のスペースさえも確保できず、断片的な知識をばらまく傾向が強まったことである。

義務教育から大学まで、教科書に関する限り、ゆとり教育以前の日本の教科書はきわめて優れている。アメリカの中学校で使用されている歴史の教科書は、日本で使用される社会の教科書と比較して数倍の分量に相当する。大学で使用される同じ内容、同じレベルの教科書で比較しても、数学や経済学の分野でも同様である。日本人が執筆した当該分野の教科書の分量は英米の半分以下でも、必要なことがきわめて要領よく記述されており、内容面でも遜色はない。教科書の内容を理解できる最小限の基礎学力があれば、日本の教科書のほうが少ない時間で授業内容が理解できることになる。日本の教科書は、いわば幕の内弁当である。学校の教科書こそ文化的遺産がぎっしり詰まっている。授業は知的作物を収穫するための畑であり、基礎学力は種である。教科書や参考書は肥料である。図書館は作物を栽培するための知識が詰まった倉庫であり、展示室でもある。

最近コンピュータ・ネットワークは図書館の機能を補完し、使い方次第で勉強の力強い味方にもなる。パソコン上で雑誌、学術論文、あるいは所蔵文献にアクセスできれば、横浜・平塚両キャンパス間の距離が著しく縮まったと実感できるはずである。(経営学部教授・経済学)

## 『日本奥地紀行』

イザベラ・バード著 高梨健吉訳 平凡社

B291-474 081-4-329

## 小 國 力

前回は、「米欧回覧実記」により、明治初期に海外に視察に出かけた日本人の見たものにふれた。今回は、逆に、同時期にイギリスからやってきた一中年女性による日本観察の記録をとり上げよう。

イギリスは19世紀初頭、ナポレオンとの戦いに勝利を収め、産業革命でえた国力を駆って、世界に覇をとなえる。この結果、植民地のインド、南アフリカ、カナダ、オーストラリアはもちろん、中国や日本にも進出し、この過程で多数の男性宣教師や探検家が行ったところ奥地にでかける。その全盛期はヴィクトリア女王時代である。これに触発されたか、やや遅れて一群の勇敢な女性たちが未知の世界に出かけるようになった。このなかには詩人バイロンの孫娘も含まれる。わが国でいえば、幕末から明治にかけての時期である。これらの女性のうち、来日したのはイザベラ・バードとマリアンヌ・ノースが名高い。とくにバードは数回日本にやってきて診療所まで開設したが、最初の訪問では新潟、東北、北海道を旅し、その間に妹に送った44信もの手紙と31葉のスケッチをまとめて分厚い「日本奥地紀行」としてマレー社から出版している。いっぽう、ノースの場合は一回来日ただけであるが、京都や関東の美しい景色や建物の絵を遺している。これらの絵は世界各地の800枚にもわたる美しい絵とともにロンドンの王立キューガーデンのノース展示館に飾ってある。

バードが最初に日本を訪れたのは、明治になって10年余りたった1878年5月のことである。彼女は18歳の通訳を雇って、馬の背にゆられて

横浜→東京→日光→新潟→米沢→山形→秋田→  
青森→函館→室蘭→白老→函館→横浜

へと3か月余にわたって旅した。明治初期の日本の奥地では古くからの文化や生活習慣が現存し、

新開地では西欧の文化が入りこんでいた。まったく違う文化のなかで育ち、しかも中年の女性という目でこれら日本の実情についてよく観察し、子どもとその親、婦人たち、生活様式など克明に記録を残してくれている。当時の日本人にとって当たり前前は日本人の記録には載らないものだが、外国人の彼女にとってはまことに新鮮な発見だったのである。とくに、外の人に身構える役人とはちがひ、庶民は外国人に対しても隠すことができなく、江戸時代から伝わるありのままの生活が彼女の前にさらされている。彼女の著作を通じて、われわれの先祖がこういう生活をし、こういう生きざまだったのかと知ることができる。明治以降、富国強兵や産業化・都市化のなかで忘れ去られた庶民の本当の姿を垣間見ることができる。

彼女は中年をすぎてからアメリカ、中近東、アフリカ、東洋というように世界各地を旅しはじめ、1904年に73歳で亡くなっている。行く先々での紀行文を出版して旅行費用に当てるとい生活続けた。東洋では、日本のほか、中国と朝鮮の奥地にも出かけ、紀行文を出版している。日本へはこのあと1894年から96年まで5回訪れている。彼女の最後の旅行は70歳のとき、半年かけて北アフリカのモロッコの砂漠と山々を旅している。一生を通じて未知なものを訪ね歩き、亡くなったのは73歳のときである。私たちに勇気を与えてくれる生きざまであると思う。民俗学者の宮本常一が本書の感想を何回か講演し、平凡社から本として出版されている。ぜひ本書と合わせて読んでほしい。また、彼女の著作は数冊翻訳出版されているので、興味のある人は読んだらよい。

(理学部教授・応用ソフトウェア)

## 『学としての公法』

手島孝著 有斐閣

B323-65

諸坂 佐利

私が今回薦める一冊は手島孝先生がお書きになった『学としての公法』という本です。

本書は、「公法(学)の入門書であり教科書であり体系書」(「はしがき」)ですが、従来の公法学(主に憲法と行政法をあわせてこう呼びます。)に関する入門書・基本書で、これに比肩するものを私は知りません。本書の内容は、「学というもの、法学というもの」(第1章)、「公共性の法としての公法」(第2章)、「国家の法化としての公法」(第3章)、「公共主体と公法関係」(第4章)、「公法行為の諸形態」(第5章)、「公法行為の手續原理」(第6章)、「公法行為の目的原理」(第7章)、「公法関係の保障」(第8章)となっており、まず、そもそも「学問」とは何か、学問はどのような変遷を辿りつつ進展してきたのか、について述べたうえで、「法学」の歴史・存在理由<sup>レゾンデートル</sup>、法学のあるべき姿を説いています。そしてここで繰り上げられる展開が、著者の学問体系全体に通奏低音として鳴り響いています。著者は、考察の対象を憲法・行政法(狭義の公法)の境域に囚われることなく、国際法、訴訟法から刑法、さらには私法をも視野に取り込んでいます。すなわち著者は、公法学という視点から、21世紀の超現代の法律学全般の再構成・新構成を試みているのです。この果敢な著者の学問的作業に対する賛否はともかくとして、法律学の世界では少なからず画期的な試みであると考えられます。しかし、私が本書を推挙する真の理由は、別のところにあります。私は、本書を通じて、著者の滋味豊かな叙述<sup>ディスタール</sup>に触れながら、人生において学問をすることの幸福を感じてほしいと思ったのです。実際、読み始めますと、まず最初に登場するのは『老子』です。そのほかにも、

孔子や韓非子、アリストテレスやプラトン、カール・ヤスパーズ、ニーチェ、ハイデッガーなど、洋の東西を問わず、また時代の今昔を問わず、法学以外の碩学の名言が著者の論攷を彩り、読み進める者を真のアカデミズムの世界に誘ってくれます。ゲーテやシェークスピアの戯曲の科白<sup>セリフ</sup>も巧妙に挿話されています。もちろんブラックストンやダイシー、イェリネック、ラーバント、そしてオートー・マイヤーなどの公法学の巨星も登場しています。すなわち本書は、公法学の教科書・体系書でありながら、同時に、大学で学問をする意義、人生における学問の意義をも教えているのです。それにしても著者の教養の深遠さには驚愕を禁じ得ません。しかし換言すれば、本書は、相当の教養がないと読みこなせないかもしれません。しかし、だからこそ、《学士》・《修士》となるべく、みなさんには、本書をひとつの契機として、教養を高めていってほしい。本書を精読する過程では、いくつもの途中下車<sup>よりみち</sup>をすることとなるでしょう。あるときは、カントやラートブルフに教えを請い、またあるときには、パスカルやニーチェと時空を超えた対話をすることでしょう。しかしながらこのような一つひとつの困難な道程を経てこそ、至高の幸福感は得られるのです。ゲーテも言ってます。「涙とともにパンを食べた者でなければ人生の味はわからない」と。

ぜひとも、本書は、憲法学や行政法学を専攻される方々のみならず、刑事法、国際法(これらは広い意味では公法学に入りますが)、民商法、基礎法学を専攻される方々、否、法学部以外の学生にもお勧めしたい一冊です。

(法学部専任講師・行政法)

## シルヴァー『日本風俗習慣点描』初版 1867年

Silver, Jacob Mortimer Wier.

Sketches of Japanese Manners and Customs /Jacob Mortimore Wier Silver. --London:Day and Son, Limited, Lithographers and Publishers, 1867.

[vii], 51p., 28leaves of plates:ill. :30cm.

Spine title: Japanese Manners and Customs.

“With Original coloured pictures by native artists.”

“Reproduced in fac-simile by Day and Don Limited.”

Full red cloth.

著者シルヴァーは、幕末期の英国海兵歩兵隊付きの大尉で、1864年から1865年に日本についての資料を収集した。本書で彼の叙述を補うために用いられた江戸の画家（絵師）が描いた美しい挿絵は、その収集した資料の一部だろう。表題にあるように、彼は日本の風俗と習慣、そして文化を欧米に紹介しようとした。本書には彼の亡父と親しかった準男爵への献辞が添えられているが、そこで、彼は「遠くにおいて未だ十分に知られていない日本民族の社会的特殊性」について解明したいと述べている。では、シルヴァーは日本の社会的特殊性をどのように捉えたのであろうか。

彼が本書で取り上げたのは、日本の祭りと祝日、火災と火消し、家庭生活、将軍、帝の政治、腹切

り、国技と娯楽、犯罪と刑罰、迷信と宗教的締め付け、東海道、相互監視システムなどである。それに照応して「端午の節句」、「纏をもって火事場にむかう町火消し」、「相撲」、「歌舞伎劇場」「腹切り」などの挿絵が効果的に用いられている。これらの挿絵を通していろいろなことが分かってるので見ていて楽しい。例えば、上記の「火消し」について、その背景を次のように述べている。「大多数の家屋が木造であって、火災は頻繁に起きた。何故なら紙で作られた蠟燭で明かりを灯す提灯、釜戸、住居内で持ち運びがしやすい火鉢などの火種がたくさんあったからである」と。しかし、町々には多数の町火消しが効率よく組織され、各番屋には消火に必要な桶などの用具があって、火災に対する備えは十分に行われていたとも指摘している。イギリスには、町火消しのような組織がなかったので彼は興味を持ったのだろう。彼が指摘している町人自身による消防体制の組織化は、江戸時代の享保3年（1718年）に町奉行の大岡越前守忠相によって行われている。火消しが各町に設置されると、出火の際に、風上の二町、風脇の左右二町、計六町が各町30名ずつ火消し人足を出して火消しにあたることが定められた。享保5年（1720年）に組合が再編成され「いろは」四十七組になり、享保15年（1729年）に四十七組が一番から十番組の大組に分けられた。挿絵から判断すると、この町火消しの組は、大伝馬町、通湯町、小網町、堺町、堀江町の周辺の消火に当たっていた壺番組の『は』組であることが分かる。また纏（matoe又はfire-charms）に、馬簾（「ばれん」纏にたれさがっている飾り）が付けられたのは享保15年（1729年）だからこの挿絵の原画が描かれたのは、それ以降だと想定される。挿絵の右手には、半鐘を鳴らす火事番、左手には町火消しが描写されている。命がけで火事場に向かう町火消しの姿は「火事と喧嘩は江戸の花」と言うように彼らの誇りを今でも我々に伝えているようである。

(情報サービス課・吉田 隆)



纏をもって火事場にむかう町火消し

## 平塚図書館

### 展示コーナーの紹介

作品の展示をお待ちしております！

平塚図書館の玄関ドアを開くと、左手に色の薄いグリーンカーテンが天井から吊るされた壁面がある。そこが、2か月に一度のサイクルで絵画・書道・写真・華道・木目込み人形等の作品を紹介する展示コーナーである。既に2年半の歴史を持ち、学生、教職員、大学の業務関係者、地域の人々の協力をいただき15回の個人の作品展を開くことができた。

最初のうちは人づてに図書館から個人の作品貸与の協力依頼を行っていた。展示を隔月で展開できたお陰で、学生から4件、教職員から4件、地域の人から3件の申し出を得られる幸運を得た。

作品を見た宗教学の非常勤の先生が、本務校の博物館資料とその解説文の便宜を図ってくれた。横浜図書館から平塚図書館に初めて移動した貴重資料が展示された。地域の芸術家から出品をいただき、在学生が事務室にきて出品協力を申し出てくれた。そして、その展示コーナーに職員が美しい花を活着てくれる。

小さな展示場ではある。しかし、複数の作品の競演がいつしかその場を超えた世界を生み出している。

平塚図書館展示コーナーへの出品をお待ちいたしております。

## 2004年度 第3回 図書館上映会と講演

### 池谷薫監督「延安の娘」開催

- 日 時 2004年11月19日（金）
- 上映作品 『延安の娘』
- 演 題 池谷薫 監督  
「延安の娘と次回作を語る」

1966年、毛沢東は中国共産党内部の権力闘争に勝利するために10代半ばの青少年で組織した紅衛兵を使い、対立相手を反革命分子として制裁を加えた。1968年には北京などの諸都市から紅衛兵を農村諸地域に下放させ、重労働をさせた。この下放先では、思春期にあった彼らの間では自由な男女の会話ができない厳しい管理が行われていた。

今回の上映作品は、北京から下放した紅衛兵の間に生まれ、すぐに両親に捨てられた娘の〈親〉捜しがテーマになっている。池谷監督は、捨てられ、延安の農村で義理の両親に育てられた娘と決して豊かな生活をしているとは思えない北京の父との〈再会〉にいたるまでの経過を、克明にその映像で捉えている。そして、そこに映像表現された様々な人間模様の中に、我々は、長征、文化大革命、毛沢東死後の鄧小平の指導のもとで農業・科学技術・工業・国防の近代化と経済改革、そして今現在さらに進もうとする市場開放という激動の歴史のなかで翻弄されながらも〈成り上がった人々〉、〈乗り遅れた人々〉を認めるのである。重い課題を与えられる『作品』だと思ふ。次回作『蟻の兵隊』も期待される映画である。



## リニューアルの概要

2005年4月に神奈川大学公式ホームページがリニューアルされることに合わせて図書館ホームページもリニューアルすることになりました。

図書館ホームページは2003年4月の新図書館システム (iLiswave) 移行に伴い作成されたものですが、2年を経過した今、更に本学学生・教職員はもとより学外の方にも使い勝手の良い、時代にあったサイトにするため、「構成」、「内容」、「表示・レイアウト」等について、見直しを行いました。

## リニューアルの基本方針

今までのホームページの良さを踏襲しつつ、利用者に対するWebアクセシビリティの向上を最重要と位置づけ、感覚的にわかりやすいサイトを目指しました。

特に図書館ホームページの基幹コンテンツである情報検索と利用案内については、利用者の声を踏まえつつ、構成から大幅な見直しを行いました。

更に、デジタル資料の拡充と検索機能の強化およびホームページにおける著作権などの責任所在や説明についても明確にし情報化時代に対応、メンテナンスも容易にできる構造にしました。

## ホームページのデザイン

大学公式ホームページと共通のデザイン・イメージを保持しつつも、シンプルで見やすく、かつ落ち着いた雰囲気のある図書館らしいホームページになるよう考慮しました。

色彩的には、大学のイメージカラーのブルー

# リニューアルについて

## 図書館ホームページの

と落ち着いたあるグレーをテーマカラーとし、コントラストにも配慮しました。

トップページは以前と同じく、スクロールしなくてもスムーズにメニュー選択ができるようにデザインしました。各メニューの大きさ、色、アイコンなどに特徴を持たせ、情報の強弱をつけながらも、全体が一覧できるように工夫しました。

各コンテンツページでは、ユーザビリティの観点から新たに左側にナビゲーションを設置。メニュー構成を常に提示し、関連項目へのリンクを充実させて、どこから見始めても必要な情報にたどりつけるようにしました。

また主要項目のトップページには写真を大胆に使い、目にも楽しいデザインを目指しました。

## 各コンテンツの主な改善点

- ①蔵書検索・情報検索を統合。総合的な情報探索の場として再構成しました。
- ②横浜図書館・平塚図書室それぞれの利用時間や利用状況の違いに配慮し、利用案内・カレンダーなどの項目を

キャンパスごとに分けました。

- ③利用案内を充実。館内施設の案内や写真が見られるフロアガイド、資料の分類など質問が多い事項や協定図書館なども新たに追加しました。

- ④各ページに蔵書検索ができるOPAC検索窓およびサイト内検索窓を設けて、利用者の便宜を図りました。

- ⑤携帯サイトを開設しました。蔵書検



※トピックスは仮の画面です。

索以外に開館時間等の情報も、携帯から確認することができるようになりました。

## 最後に

昨年度の図書館基本方針において、「学術情報を収集し、コンテンツを充実させた学術情報センターとしての機能、大学内の学習・教育・研究を

シームレスに結びつける機能、大学外部のさまざまな情報源と大学内部の各学習・教育・研究スポットを結びつける機能等々、大学全体を統合するシステムとしての役割を果たすこと」を掲げており、これを達成していく手段としてのホームページの存在は大きく、今回のリニューアルがその目的達成の一翼を担えたら良いと思っています。

(情報サービス課)

# 「グループ情報検索室」4月より開設

昨年6月に、オンラインデータベースや電子ジャーナル等の利用方法の講習会を行う「情報リテラシーセミナー室」を開設しましたが、本年4月より、新たにパソコン10台を設置した「グループ情報検索室」を横浜図書館2階に設置いたしました。

この「グループ情報検索室」は、クラスの小グループ(班)やゼミナール単位での学習、レポートや論文作成など、図書館所蔵資料の検索の他、データベースやインターネットを活用した情報検索ができるワーキングルームとして、授業時間帯に合わせて時間貸出を行う施設です。

利用希望グループは、下記利用方法によりお申し込みください。

### 《 グループ情報検索室の利用方法 》

■受付場所 図書館2Fカウンター

■受付時間 9:00～19:30 (休業期間:9:30～17:30)

■利用時間	授業期間	休業期間
①	9:00～10:20	① 9:30～10:20
②	10:30～12:00	② 10:30～12:00
昼	12:05～12:55	昼 12:05～12:55
③	13:00～14:30	③ 13:00～14:30
④	14:40～16:10	④ 14:40～16:10
⑤	16:20～17:50	⑤ 16:20～17:30
⑥	18:00～19:30	

(授業期間の土曜日の④は14:40～16:00、休業期間の土曜日は利用できません。)

■利用条件 1. 図書館の利用資格があるグループ(4名以上10名以内)で、クラス(班)、ゼミナール単位の申し込みに限ります。  
※PC使用にはMNSアカウント(ユーザーID、パスワード)が必要です。

2. 会議、集会等の単なる会合のみには利用できません。

※室内での飲食、喫煙はできません。

■予約受付 予約は利用日の1週間前から前日までに2コマまで申し込みできます。延長は、次のコマに空きがある場合に限り、当日1コマのみ受付いたします。

\*個人利用者向けには、横浜図書館の1Fに4台、2Fに3台のパソコンを増設し、情報検索の充実を図りました。

## 図書館展示コーナー

## 『江戸の老舗と文化』

展示期間 4月1日～6月30日

今回の展示では、江戸期に創業された老舗にスポットを当て、浮世絵など当時の文化と共に紹介していきます。取り上げる老舗の中には、時代小説やテレビの時代劇、マンガにも登場しているお店もあります。また再建こそされたものの、その店構えは創業当時の建物の雰囲気を忠実に残していたりします。流行や世相に流されず、独自の「持ち味」を先祖代々何百年も守り続けている老舗の魅力に触れてみて下さい。本当に欲しいと思える物をやっと手に入れることができた時の喜びを思い出してもらうきっかけになれば幸いです。興味があれば、実際に江戸の町人になったような気分で紹介した老舗やその界隈を訪れてみてはいかがでしょうか。

是非一度ご鑑賞下さい。



三井呉服店（現三越）最初の広告

## 図書館の利用案内

### 1. 利用者端末のリニューアルについて

Windows2000からWindowsXPへの変更に伴い、3月14日から図書館の利用者端末がリニューアルされました。利用方法は基本的に変更ありませんが、不明な点がありましたら、職員にお尋ねください。

### 2. 新着案内・貸出ランキングについて

新しく受け入れをした図書について、図書館ホームページのトップ画面にある新着案内から、目録データを見ることができるようになりました。なお、新着図書は約一か月間、1F開架閲覧室新着図書コーナーに配架しています。また、同じ画面の貸出ランキングから、貸出数が多い図書の目録データを見ることができます。

### 3. 新入生図書館利用ガイダンスについて

4月中旬から個人や基礎ゼミ等を対象とした図書館利用ガイダンスを実施します。詳細については、掲示および図書館ホームページをご覧ください。

### 4. 情報リテラシーセミナーの開催について

今年度も、データベースの使い方の講習を2F情報リテラシーセミナー室で開催します。開催日

時等の詳細については、掲示および図書館ホームページをご覧ください。

### 5. 春季長期貸出図書の返却について

春季長期貸出期限日は4月11日（月）です。返却がまだの方は至急返却をしてください。

### 書架から

朝日新聞の夕刊に、夫の「痴呆」の介護を19年間続けた83歳の女性が、折々に詠んだ450首を収めた歌集を自費出版したというインタビュー記事があった。高齢化社会とともに、介護はどれほど深刻な問題となっていることだろう。このなかには、日々「呆け症状」が進む元中学校長の夫への思いがこぼれられた11首が紹介されていた。そのなかの一つ——〈五人子の中にひとりの娘のあらば看とりのひと夜代りくれんか〉。私は電車のなかでこの歌を読み、作者の哀しみとともに、一夜を代われない一人の「娘」の生活と悲しみを想った。私たちは、若者から老人まで、ある「生きにくさの時代」を生活している。小説でも、死と記憶を扱った古井由吉『野川』など、新しい「老人文学」も注目されている。(K)